

## Serendipity & Boss in Northwestern

Northwestern University  
Feinberg School of Medicine

夜久 英憲

(京都大学大学院医学研究科循環器内科学)

アメリカ第3の都市シカゴにやってきて、早半年が経過しました。かなりの寒さと聞いていた冬も無事終わり、思ったよりは寒くなく（-18℃くらいの日が2日あったくらいです！）、少しずつ暖かくなってきた4月のシカゴは大変心地よく、美しいミシガン湖を眺めながら、この留学だよりを書いております。現在所属しているノースウェスタン大学医学部は、シカゴの中心地ダウントウンに溶け込んだかのように位置しており、まわりは高層ビルばかりで、どこまでが大学の施設でどこからが関係のないオフィスビルなのかよく分からない、そんな感じです。有名なミレニウム・パークが徒歩圏内にあり、その他、歴史ある建築、数多くの素晴らしい美術館、交響楽団、プロスポーツなども充実しており、最高のシティーライフを満喫できております。留学先にシカゴ、かなりお勧めです。

とはいえ、シカゴを選んだのはかなりの偶然で、たまたま自分が突き詰めたい研究分野の世界的なパイオニアがここノースウェスタン大学におられ、まだ誰も日本人が留学していなかったからであります。その世界的なパイオニア Dr. Sanjiv Shah は、未だ確立した治療法のない左室駆出率の保持された心不全（HFpEF）に関する最先端の臨床研究を数多く手掛けておられる先生で、自分自身も現在 HFpEF に関する治療法開発などに向けた様々な臨床研究に従事し、その運営方法も含め、日々好奇心を刺激されながら、多くのことを学ばせて頂いております。また、素晴らしい人格者であられ、超多忙の中毎週直接議論する時間をとっていただき、PIとしての心構えやキャリアの考え方、帰国後にどのように自分の世界を切り拓いていくか、など研究実務以外のことまで色んなアドバイスを頂けて、本当に勉強になる毎日です。また、学外でもボスの紹介で世界の心不全臨床研究を率いていらっしゃる先生とお話できる機会もあり、これも大変有り難い機会となっています。自分の人生これまで多くの Serendipity に助けられてきましたが、今回もまさしく Serendipity の賜物であり、その有難みを噛み締めつつ、帰国後しっかり心不全診療向上に貢献できるよう、日々努力を重ねているところであります。

プライベートな時間につきましては、妻もこちらでポスドクとして働いておりますので、家事は50/50で分担しており、自分は料理をしている時間が多く、アメリカで作れる日本料理の種類も徐々に増えてきました。また外食も美味しく、シカゴ名物の Deep Dish Pizza、その他メキシコ料理、中華料理、インド料理など色んな国の料理を楽しんでいます。

そして、住んだからこそ分かるアメリカの良い点、悪い点も色々あり、子供にとっても人生を豊かにする色々な経験ができていていると思います。シカゴでの生活もまだ2年ほどありますので、休みには旅行しつつ家族で異文化を引き続き楽しもうと思っています。

このように、自分の人生にとってかけがえのない経験を造り出してくれている留学という機会をご支援頂いた上原記念生命科学財団、京都大学循環器内科の木村剛教授、および関係者の皆様に心より深く感謝申し上げますとともに、このご恩に倍返し以上で恩返しできるよう、今度もより一層努力を重ねて参ります。



いつもの診察室から見える癒やしのミシガン湖